

平成30年度 第4回「ともに考えよう まちづくりミーティング」

平成30年8月18日（土）14時～

新竖会館 2階 大ホール

新竖町、菊川（校下）

(1) 市長あいさつ

【山野金沢市長】

皆さん、こんにちは。

土曜日、そして日中、暑い中、たくさんの方がお越しいただきまして、心から感謝を申し上げます。

今日は、新竖、そして菊川両校下の皆さんにお集まりいただきました。先般、市長室にお越しいただき、両小学校の統合について署名をいただきました。7月には統合協議会が発足したとお聞きをしております。これから具体的なことを地域の皆さんと一緒に考えていくことができればと思っています。

また、その統合協議会の中でいろんな方向性も出てくることもあれば、そこからまた議論が広がって行って、小学校の統合だけではなくて、まちづくり全体の話になっていくこともあるかと思えますし、そんなふうには話が発展していくことも期待を一方ではしたいという思いもあります。

今日は、事前にそれぞれの校下から課題を与えていただいているところであります。そのことにつきまして議論も深めさせていただければと思います。

また、お時間もあるかと思えますので、それ以外、その他のことにつきましても可能な限り、時間が許す限りご意見もおっしゃっていただければと思います。

この場ですぐお答えできるものもあれば、持って帰ってから町会連合会の会長さんを通してご返事するものもあるかとは思いますが、意見を出し合って議論をしていくことが大切だと思いますので、限られた時間ではありますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

今日はありがとうございました。

(2) 地域代表あいさつ

【菊川校下町会連合会 会長 高島氏】

菊川校下町会連合会会長の高島でございます。

今日は、地域の皆様、暑い中、またなかなか昼間の出にくい時間帯に多数お集まりくださいました。ともに考えようまちづくりミーティングということで、両校下から30名近くの人が集まってくださりまして、どうもありがとうございます。

そして、市長を初め各部局の局長においては、地域が日ごろ思っていることを聞いてもらえる、このような機会をお開きくださりまして、どうもありがとうございます。

一昨年より取り組んできました、今、市長さんの話にもあったのですけれども、菊川小学校と新堅町小学校の統合ということで、先日、統合の調印が行われました。これからいろいろな問題があると思います。両校下の住民とともに市の意見を聞きながら、また問題解決に向けていきたいと思っております。

最近は少子・高齢化ということで人口減少や地域の活性化、環境の整備等いろいろな問題がたくさん生じております。そんな中、できる限り、この絞った内容の中で菊川1点、新堅2点という課題、それから共通課題の計4課題につきまして、これから各提言者に提言してもらい、また皆さんとともに議論していけばと思っております。

この会が意義ある内容になりますようにご期待しまして、簡単でございますけれども、私の挨拶にかえさせていただきます。

どうも今日はありがとうございました。

(3) 地域課題の説明、課題に対する市の方針等の説明、討議

① 小学校の跡地利用（新堅町校下町会連合会）

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、

レジュメを参考願います。

【山野金沢市長】

補足させていただきます。

先般、婦人会の皆さんとの意見交換の中で出た一つとして、この新堅、菊川両地域にわたる金沢市の跡地という表現になるかと思いますが、新堅町小学校もそうですけれども、

国民金融公庫の跡地を市が取得いたしました。あそこはどんなふうに使っていくのか、というご意見がありました。その時は教育長から、先ほどお話出ましたように、菊川町小学校の敷地に新校舎をつくりますので、先生方の駐車場として暫定的に使わせていただければと思っています。当然、統合新校舎ができた場合は、国民金融公庫の跡地のあり方を検討していかなければいけないと思っています。

新塲町小学校も、今しばらくは使っていただきますけれども、2022年度から統合小学校が供用開始の予定で動いていますので、逆算していけば向こう4年余りで皆さんのご意見をお聞きしながら取り組んでいかなければいけないと思っています。

市全体の流れの中で見ていかなければいけないこともあります。たとえば俵小学校ですが、あそこは当然地元の皆さんのご意見と金沢市全体の中で、どんなバランスで、どんな施設をということで、端的に言えば、第二市民芸術村のような形で、音楽やドラマ等々がしていただけるような、エリア的に音響もそんなに心配なくていい、ということでした。これは地域の皆さんと金沢市全体のバランスの中で合致できましたので、早い段階で進めることができました。

今、野町小学校もやはり地域の皆さんのご意見をお聞きしながら、全部ではありませんけれども、概ねの方向性が地域の皆さんととれつつあるところでもあります。

行政がここは何々をします、というのではなくて、地域の皆さんと、特に新塲地区の皆さんと話し合いを重ねていながら、地域のために、そして我々は我々で、行政全体のバランスを見ながら、丁寧な話し合いを進めていければと思っています。

拙速になることのないように、かといって10年も20年も議論するテーマだと思いませんので、頻りに皆さん方と意見交換させていただければと思います。

【新塲町校下町会連合会】

市として、地域からの要望がなければ金沢市の中心街に何が必要だと感じているか。

【山野金沢市長】

(地域からの) 要望がないとは思えません。やはり一義的には自分達のまちは自分達で作っていくという思いをぜひお伝えいただきたいと思っていますし、その中から一つの方角性が出てくればと思っていますところでもあります。

どんな形であっても、まちの賑わいにつながるような形になっていければという思いは

ありますが、何度も申しますけれども、やはり地域の皆さんのご意見をお聞きしながら、慎重に決めていけばいけないと思っています。

【新塲町校下町会連合会】

住民主導・主体というのは本当にありがたいことではあるのですが、でもやはり金沢市全体のことを考えたら何が必要かという、その辺を私どもも知っていたほうが、住民が提案する上で有効ではないかと思えます。

【山野金沢市長】

立地ということであれば、金沢市役所は新塲町校下にあります。（新塲町小学校は）広坂庁舎から歩いて数分、10分はかからない距離にもありますので、そんな意味では行政の何か役割を担ってもらって施設があってもいいという思いはありますけれども、これ別に私、副市長や局長の皆さんと話したわけではありません。市長としてはそんな思いを持っているところではありますけれども、繰り返しになりますが、皆さんの意見を聞きながら考えていければと思っています。

【新塲町校下町会連合会】

あくまでも要望のレベルの話ではありますが、校舎が解体されるにあたっては、今後、運動場と併せて、公園と大桑の防災倉庫、あれを併用したような避難所を設けてほしい。私はそれを常に思っております。

防災倉庫を設置して、できれば防災センターですね。防災、避難とか救急の手当て、あんなもののレクチャーをある程度できるような設備、行政も絡んで一緒にやっていただけるといい形のものをつくっていただければと、思っております。

【山野金沢市長】

先ほど俵の例を出しました。俵小学校も野町小学校の例も申しあげましたけれども、いずれもグラウンドはそのまま地域の皆さんに使っていただきたいということと、講堂も万が一、があった時のための避難所としても活用いただければという思いもあるところでもありますし、当然、今そういう大きな敷地、万が一の避難所ということもありますので、今おっしゃっていただいたような防災ということも念頭に置いた対応も求められてくる

と思っていますし、特にまちなかですから、私は絶対に必要なものだと思いますので、今のご意見は、大変貴重なご意見として受け取って、考えていきたいと考えています。

②鱗町交差点の改良（新豎町校下町会連合会）

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参考願います。

【新豎町校下町会連合会】

この提案をさせていただいたのは、福祉3団体、善隣館とか社会福祉協議会と、そして民児協、見守り隊、そしてことぶき会、老人会連合会と提案させていただいたわけですが、実は平成27年2月のまちづくりミーティングでもこの話が出ました。

一番先に私がこの話を出したのは、平成22年に市へお願いしまして、あそこを何とかしてほしいというのは、リーマンショック後に自転車通学が大変増えました。そして、今は朝晩600台近くの生徒さんの自転車が通るのですけれども、特に鱗町交差点にあります地藏さんの前のたまり。多い時は、そこに自転車が一遍に30台ぐらいたまります。そして、それが渡ると、左折しようとしていた車はなかなか曲がれない。そこでまた渋滞になる。

その話をしたら、市の方が来て「そんなにたまったらいけない。1台ずつ並ばす」と言って1台ずつ並ばせたら、ずっと長い列ができるような状態でした。そういうことをしてもダメ。何とかしなければならないということで考えたが、歩道が大体狭いです。その狭い歩道の半分の幅を、地下道の出入り口が占めている。

そして、地下道の階段が急であり、雪が降ると地下道の除雪、おかげさまで県立工業と遊学館の生徒に除雪していただいていますので、それは結構ですけれども、毎朝、それを見ておりまして、中署へ行ってお願いしたら、「あそこはどうにもならない」と。横断歩道は、と言ったら、「交差点の近くに横断歩道はつけられない」と。先ほど磯部（土木）局長が言われたようなことですが、何とかしなければなりませんし、あれから50年近くたっておりまして、高齢化が進んでおります。高齢者、障害のある方、それから買い物カートを引っ張っておられる人は地下道の上り下りはできませんし、何とかあの地下道を廃止してほしいと。そして、その時に警察へお願いしたのは、歩車分離の信号機をつけてほしいと言ったら、「そうしたら、毎朝、泉丘高校の前まで渋滞する」という話でしたが、車

が大事なのか人が大事なのか、そこを考えてほしいということをお願いしてあります。

何とか市で考えていただけませんか。

【磯部土木局長】

本当に実態に合わなくなってきたのが非常に顕著に出ているところだと思います。本当に上屋があるばかりに、歩道の狭い所は1メートルしかなくなっていて、両立させるというのは、どちらかを犠牲にするということになって、車の渋滞を放置していいかという問題にもなりますので、それらを根本的に解決するには、やはり交差点を改良するしかないと思っています。

ただ、そのためには、まず交通量調査等はしますが、そこからどんな解決のイメージがあるかという、交差点を改良するには拡幅する必要があります。そうすると、今の幅員よりもどうしても交差点部分、特に新堅町小学校の前は、直進と左折で1車線、右折側も直進と右折で1車線、4つの路線のうちのそこだけが1車線足りない。仮にそこを拡幅しようとする、新たに用地買収とか建物補償に関わってきますので、そういうことも含めて地域の皆様と相談させていただいて、将来のイメージとしたら、もし交差点を拡幅して隅切りも大きく取れるような環境になれば、かなりの部分は解消できるはずです。でも、それは行政が一方的にこうしますというものではなくて、地域の皆様のご協力も必要ですし、ご意見もお伺いしたいと思っていますので、まず絵を描いてみますので相談に乗っていただきたいと思っています。

イメージだけでなかなか警察等と相談しても、やはり何かをすることによって今よりも事故が発生してしまうなど、それだけは避けるべきだと思っています。平成28年に中署に要望されたのですね。私、その当時、交通政策部長をしまして、中署長とよくお話しする機会がありました。地域の皆様の切実なご要望はわかるのだけれども、地下道を廃止した結果、死亡事故が起きるなど、そういうことだけは絶対にやってはいけないと考えていて非常に悩んでいらっしゃいましたけれども、やはり今すぐは難しいとしても、全体の安全性が上がる方策を探っていきたいと思っています。本当に相談しながらやらせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

【新堅町校下町会連合会】

広報紙を社会福祉協議会と民協と善隣館と三者で年に2回発行させていただいて、

その時に書かせていただいたのは、「夢」と題して地下道を埋めるという話、そういう発想がなぜ出てこないのかと。地下道が漏水していて、びっくりした。それから、痴漢が出ていると。

地下道を利用する歩行者も少なくないを書いてありますけれども、県立工業の生徒の利用は少ないのですが、遊学館の生徒は地下道を利用しています。ここに拠点があるばかりに本多町方面からのお年寄りが地下道を渡って来られない。

そういうことも考えながら、それは「夢」ということで書いて、お年寄りが読んでないかと思ったら読んでいらっしやいまして、「いつ埋め立てになるのか」とこんな話がそれからたくさん入ってくる。

ベビーカーとか車椅子は全然渡れない。地下道通れない。それからもう一つびっくりするのは、皆さんご覧になっていただいたらわかると思うが、外国人の方が、観光客が堂々と自転車道を渡っていく。そんなことを考えた時に、もう地下道を埋める、という発想に立った上で、どうしたらいいかを考えていただいたほうが早道じゃないか。

昭和46年当時は60万人都市ということで、だいぶ前の市長が、その時の現実として一所懸命になられたという話はお聞きしていますが、時代が変わってしまいました。65歳以上の方が40%近い。75歳以上になると、もう25%ほどの人口になってしまう。

将来、人口が縮小していく金沢市の中心街と、郊外型の人口がどんどん増えていく所と、どんなふうに金沢市のビジョンを位置付けていくのかという発想が全然見えてこない。

だから、そういう中でいろんなことを言われても、何か絵に描いた餅みたいに見えて仕方がないので、地下道を埋めてから、どうすればいいかを考えていただければ、今の横断歩道も、地下道の入口もなくなるわけですし、横断歩道は5メートルか6メートル下がって横断歩道を作れば、車道も自転車道もできるわけですから、非常にうまくいく。現状の道の中で、入口を潰してしまえば、もう少しうまくできるのではないかなという考え方で、「夢」ということで広報紙に載せさせていただいておりますので、もしよかったらご覧いただければと思います。

【磯部土木局長】

貴重なご意見ありがとうございます。

地域の総意として、一旦は地下道を埋めるということで要望はしたものの、やはり残してほしいというご意見もあったということで、両立できないかということとしてお答えさ

せていただいたが、長い将来を見た上で、なかなか今の形をバリアフリー型にできるかという、これは極めて現実的ではないので、今おっしゃったように将来的には地下道を廃止して、ゆったりした横断歩道、これに渋滞緩和も含めて、交差点改良も含めると理想的な形はできると思っています。

まずやはり、調査結果に基づいて、そのことも含めて、すぐにできること、中期的にできること、もう少し長いスパンでできること、整理しながら進めていければと思っていますので、ぜひまたよろしくお願ひしたいと思ひます。

③高齢者も安心して住み続けられるまちづくり（菊川校下町会連合会）

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、

レジュメを参考願ひます。

【菊川校下町会連合会】

まず支え合い事業の関係ですけれども、市は新しい仕事を次々と提案してくる。そして、過去に提案した事業は消えていかない。そのまま皆さんが一所懸命やってくれています。そうした時に、どれだけその地域での対応力があっても、だんだんできなくなっていくのではないかと思っています。

それとあわせて、事を起こす時には費用がかかってきます。今のこの支え合い事業も、立ち上げる1年間だけ、市は20万円補助します、ということで私はお聞きしました。順次、ニーズ調査から進めているが、資料も作らないといけない、印刷もしないといけない。そうすると、1年間でどこまでカバーできるか。今、順次、各町会からの立ち上げを進めております。いずれ年末ぐらいまでには、菊川校下としての支え合い事業にしたいという思ひはあります。全町会がそういう形になってきてくれればいいのですけれども、まだまだいろんな形の会合の中へ出向いて説明しなければいけないということがあります。

よって、1年でその費用を打ち切るのではなく、せめて長期的に3年、5年という形の、地域で頑張ろう、という気持ちが生まれるような助成を、ぜひ考えていただきたいと思っています。

それともう一つ。最後に獅子舞の話を見せてもらったが、これを立ち上げる時に市民局も行ってまいりました。そうしたら、文化財保護課に問い合わせてください、という話も

あり、そちらへも行きました。

最終的に聞きたいのは、加賀獅子保存協会というのがあるが、この協会と市の文化財は
どういう関係にあるのか。文化財保護課にも行きましたが、市は何にも関与してくれない。
そこへ行ってくださいというだけで、橋渡しも何もしてくれない。

そして、私どもはこの加賀獅子のこどもみたいなものです。加賀獅子は10メートルほど
の蚊帳を持っているのですけれども、私ども町会を練り歩くにおいては大きな蚊帳じゃ、
到底、町の中を練り歩けないということで、5メートルの蚊帳にしました。模様とかそう
いうものは全部一緒です。縮小したようなものです。棒振り等は、ある地域の演舞を習っ
てきてやらせてもらっております。結果、一緒ですけれども、加賀獅子保存協会の規程に
該当しないと言われました。結果、自分たちでやらないといけないと。

現在まだ赤字の状態、40万円ほどの赤字を抱えています。何とか5年で返済したいと
いうことで抱えているが、どこも立ち上げる時に、昔であれば有志の方がおいでて100万
円、200万円という形で出してくれる人がいたのかもしれませんが、昨今、5,000円
集めるのも四苦八苦しています。

地域のコミュニティを大事にしろという思いが、本当に私たちは感じられない、と
つくづく思いました。

【山田福祉局長】

福祉の中でもいろんなことを議論しながら、地域福祉の向上のために考えながらいろん
な政策、事業展開をさせていただいているということで、いろんな中で地区社協、それか
ら民生委員の方々にもご協力いただきながら行っているのが現実です。

ただ、私も4月に福祉局長につきまして、いろんなところとお話しした中で、やはり地
域の社協のスタッフも大変である、民生委員も大変であるというお声はいろいろなところ
でお聞かせもいただいているところです。我々、その方の負担を増やすということは決し
て考えていないが、高齢者が増える中でいろんな取り組みをしていきたいということで考
えてきているところでございます。

これからまた次年度以降のいろんな部分を考える中で、今日いただいたご意見も、費用
の面も含めまして、いろんな面、皆様の声をお聞きさせていただきながら、また市として
工夫をしながら取り組んでいきたいと思っておりますので、引き続きのご協力、ご理解を
お願いしたいと思っております。

【長谷市民局長】

獅子舞を作られた最初の時点で、文化財保護課で「関連の団体へ行ってこい」というような失礼なお相手をしたとしたら、大変申し訳なかったということで、私からおわびさせていただきたいと思います。今の文化財保護課長には、そういう対応はしないように、よろしければ私からでも改めて、その辺りの交通整理をするように、念のため申し上げておきたいと思います。

【菊川校下町会連合会】

新規事業しか受けてもらえない、というのがある。私どもはもう始めてしまっている。

【長谷市民局長】

それは私どもの市民局の持っている活動です。こちらについても、既存事業で同じことをやったままでは、補助対象にはできないのですが、何らかの工夫、たとえばこれに音楽を工夫する、今年もこれまでカセットで流していたのを生演奏でやる工夫をされたところに助成した、ということもありますので、少しでも新鮮味を出していただければ補助対象にもなりますし、また私どもも知恵を絞りますので、ご相談に乗りたいと思います。

【山野金沢市長】

付加価値をつけると考えていただければと思います。新しいことをするのもそうかもしれませんが、これまでされてきたことに付加価値をつけることによって、コミュニティの醸成につながっていく。そんなご提案もぜひいただければと思いますし、また市のこれまでの経験の中からアイデアがないかとお聞きいただければ、これまでの市の先輩方がやってきたこと、他の都市がやってきたことの中から該当するようなアイデアを出すこともできるかと思いますし、その中から新しい価値をつけることによって、新しい仲間を増やしていくことができる。そんなご提案も一緒に考えていければと思っています。

【菊川校下町会連合会】

今ほどの事例発表をお聞きしまして、公民館としては、ということで考えながら聞かせていただきました。

そのマンパワーについてですけれども、公民館でもいろいろと活動しております。先ほ

どもお話ございましたけれども、公民館には元気がある人はみんな来ております。公民館では36講座もしていきまして、また生涯教室として16教室しているわけでございますけれども、多くの方、本当に元気な方が来て、そして活動の前、後に事務室に来て、まるでお茶の間状態になっているわけでございますけれども、でも、それだけでは決してマンパワーは解消できません。

ということで、私たちがしているのは、校下のニーズに応えようとして、幅広い年代を、今まで公民館に足を運んでいない方を、ということをしているわけでございます。

そこで、たとえば若い方にはフラワーアレンジメント。今まではいわゆる生け花教室をしていたのですが、若い人に入っていただく。これがマンパワーにつながっていく。

また、将来の子どもたちにも活動を担っていただきたいということで、子ども宿泊体験 inキゴ山、親子で楽しくクッキング、家族で門松作り in菊川など。それから私も団塊の世代で、ちょうど社交ダンスが流行した時代でございますけれども、きくがわ音楽祭、今年3年目になります。一日だけの社交ダンス教室を開き、それから落語を聞きたい方がいらっしゃるといって落語教室しましたが、あくまでもマンパワーというのは、先ほど市の当局からお話ございましたけれども、やっぱり住民主体のマンパワーでなければいけないと思っております。

公民館が魅力ある活動をすれば、やがてその人たちが今度は受け身の状態から、能動的に関わっていただくと思っておりますが、なかなか人手が足りずに公民館員、ボランティアだけで大変なことになっているわけでございます。

ですが、先ほどこの藤棚獅子舞のお話をお聞きしまして、この中の若手の何人かが菊川町公民館の活動に参加していただいております。ということで、地域の活性化が公民館の活性化になるということを、改めて今、感じさせていただいているわけでございます。

その中で特に大切だなと思ったのは、やっぱりマンパワーともう一つお金の問題です。失われてきた文化、特に藤棚神社の獅子舞は復活じゃなくて新しく始まった獅子舞でございます。今あちらこちらで、いわゆる伝統文化が失われつつあるところに新しくできたわけでございます。

ということで、これによって若い担い手が育っていき、地域のお年寄りの手助けになると思っております。金沢は伝統文化のまちでございます。ぜひそれぞれの町会、校下で伝統文化が新しく復活し、また継承していけるように、ぜひそういうところに関心を持ちながら、継続的な支援をお願いします。

(4) 共通課題についての討議

①まちなか地域におけるコミュニティの長期的展望と市等から委嘱される委員等の見直し

「共通課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参考願います。

【山野金沢市長】

ごめんなさい。僕、公民館委員が六十数年間、全然仕組みが変わってないことを今初めて知りました。時代も変わっていますし、期待される役割も変わってきているのは当然のことだと思います。ご指摘もいただきましたので、今一度調べさせていただければと思っています。

スポーツ推進委員については、人数もそうかもしれませんが、金沢市行政のスポーツ施策に時間も体も取られることによって、地域の活動に参加できる時間が、またマンパワーがないというのは、これはやっぱり間違いなく本末転倒になってくるかと思っていますので、このあり方につきましても、今一度、スポーツ文化というものにしっかり取り組んでいきたいという、この提案をさせていただいたこの時期だからこそ、今一度精査をすることによって見直しさせていただければと思っています。

金沢方式の話が出ました。時代が変わってきて人口が減ってきますが、金沢方式というあり方は絶対変えていけないと思っています。もちろんご負担をいただく金額であったり、マンパワーであったり、そのことについては、時代の流れに合わせて考えていかなければいけないと思っていますけれども、やはり地域の皆さんが、お金であったり、マンパワーを出して、公民館であったり、様々な活動に関わっていただくことによって、自分たちの町という意識を強く持っていただけると思っていますので、ここは工夫しながら対応していかなければいけないと思っています。

先ほどご提案ありました、新しいことを取り組むに際して、いろんな財政的なバックアップというものは、僕は必要だと思っています。でも、気をつけなくちゃいけないのは、僕はやっぱりスタートアップに限ると思っています。良い事業だから、今後ずっとしていきたい。だから、ずっと行政の助成を頼む。というのは、僕はやっぱり違うと思っていますので、そこは皆さんと相談をしながら、持続可能なやり方を、どのような仕組みを一緒に作っていくことができるのか。そのスタートアップとして財政的なものも含めて、行政

と地元の皆さんと一緒にしていきましょう。

ただし、それは3年を目処なのか、5年を目処なのか、10年を目処なのかわかりませんが、そこは工夫することによって、新しい文化になっていくことができれば、と思っています。

先ほど新塹の盆踊りのお話が出ました。本当に素晴らしいと思っています。相当なご苦勞があったと思います。1を10や100にするのもなかなか難しいのですが、実はそんなに難しくありません。でも、ゼロを1にするということは、とてつもなく難しいことだと思います。けれども、特に盆踊りのような、校下・地区を挙げての事業をゼロから1にしたという、僕はこのパワーはすごいものがあると思いますし、心から敬意を表したいと思いますし、そのことについては、むしろ我々のほうがご指導いただかなければいけないことがあるかと思っています。

また、今度の土曜日、お祭りがあります。しんたてふれ愛まつりとか、しんたてコーヒ一大作戦とか、いろんなアイデアを出して、そのアイデアを形にされて、それを継続されていらっしゃるということに対して、心から敬意を表したいと思いますし、繰り返しますけれども、むしろ僕らのほうが教えてもらわなくちゃいけないこともあるんだ、と思っています。

いろんな具体的な形でご指導もいただきましたので、しっかりと受けとめて、宿題として、また町連会長さんにお返ししたいと思っています。

【新塹町校下町会連合会】

今の地域活動のことについて、公民館には公民館制度ということで事務局がしっかりしております。私どもの支え合い事業は社協が中心になって受けて、民生委員の負担もあつたのですけれども、地域の活動を続けていくことについては、スタートアップじゃなくて、やっぱり事務局体制というものが必要ではないかな。その部分についての保障というのが、行政との関係で作っていくことが絶対ではないかなと思います。

【山野金沢市長】

おっしゃるとおりだと思います。ああいう事業をするためにずっと支援をすることは、私はいかがなものかと思いますが、その仕組み作り、行政的に言えばインフラという表現になるかもしれませんが、その仕組み作りには私は継続的な財政、負担がかかるの

は当然のことですので、その仕組みをしっかりと持続できるような体制は、行政と地域の皆さんと相談をしながら、必要な財政的支援というもの、支援という表現は適切ではないかもしれません。必要な双方の財政的負担というものはしっかりとできるような形にしていきたいと思っています。

【新塹町校下町会連合会】

それと、その活動する時の負担をどこに求めるかという部分です。支え合い事業の時には、どうしても立ち上がりの部分については民生委員が今まで地域福祉という大きな部分を占めてきたので、それは否めないことではないかとは思いますが、やはりこれは地域全体で、新塹の場合は高齢化という危機感を共有することによって負担をどこに求めるかを、地域の方に意識を持っていただいたということではないかなと思います。

そういう意味で、確かに支え合い事業というのは社協がやって、民生委員が活動して、ということであつたら、あれは本当に民生委員がやっている仕事だから、ということで終わってしまうのではないかと思う。だから、本当に地域全体で取り組むという姿勢を示しながら、事業をやっていくということではなければならない。

そういう意味で、福祉局長も最初におっしゃったが、立ち上がりの時にみんなで問題意識を共有するところから出発する。新塹も座談会という方式で始めた。それと、やっぱり参加していただく方に意識を持っていただく、自己実現の場だということ、一方的に支えるということじゃなくて、支えることが支えられることだ、ということ意識していただくという取り組み方も必要ではないか。そうでないと続いていかないと感じています。

【新塹町校下町会連合会】

今の地域支え合い事業ですけれども、うちもそれをやりました。今やっているのは、広報と、広報は「ひろめ屋」というのですけれども、それと寺カフェをやっています。お金はかかりません。お金はお寺に、借り賃はただだということで。それから、参加する皆さん方には200円ずついただいて、それでコーヒーとかお茶を飲んでいただく。これで3年目になり、毎月1回やっています。

ボランティアに集まってこられる方といいますけれども、ボランティアというのはやはり、自分が楽しまなければボランティアはできないと思います。

ですから、これで3年間やっておりますけれども、来られるボランティアの方は本当に

生き生きとして楽しんでやっておられますし、来月は何をする、その次はどうするかということを一所懸命考えておられますので、やはり知恵は出して、そしてお金のかからないようにやっていくのが支え合い事業の実態だと思っておりますので、これが本当に大切だなと思っております。

【新堅町校下町会連合会】

今、支え合い事業のお話が出てきて大変ありがたいが、3年も経ちますと固定化してきて広がりがなくなってきたり少しつらい、お金の面でもつらい、こんな話があります。

話は変わるが、公民館委員とかスポーツ推進委員というのは数が決まっているというお話がありました。

私も民生委員を3期やらせていただいたが、その時に市役所をお願いしたのは、これだけ新堅町校下とか菊川校下とか、65歳以上の人口が増えてきた時に、民生委員の数が固定化されておまして、200世帯で1名とかそういう感じになっている。新堅の場合は民生委員が14人しかいない。あと2人は児童委員、主任児童委員という形になっておまして、郊外へ行きますと人口がどんと増えますので民生委員の数は多い。そういうアンバランスの中で、市から民生委員に対しての仕事が、あれをやってくれ、これをやってくれと。しかも、国庫補助がついているのでどうしてもやってくれ。そして、7月からよろず相談窓の看板を掲げさせてもらいました、これも国庫補助がついているからやめられない、断れない。と、こんな話です。

だから、そういう話じゃなくて、実態に合わせた数を、民生委員に対して数を2人ぐらい増やす、とかそんな話をしてくれればと思う。皆さん、仕事の話としては、この暑いときに安否訪問しなければいけないと。熱中症の話もあれば、そんなことの中で民生委員の増員というのは、現在やっている方はなかなか言いづらいと思う。だから、そういう中で新堅はたった14人しかいないという話。子供の数は少ないですから主任児童委員は2人という形にはなっておりますけれども、それはしょうがないとして。実際、民生委員が65歳以上という話の時に、65歳の基準をどうするかという話も出てくるのではないかと思いますけど、その辺のところは今、「そくさいネット」をやらせていただいて、いろんなことが耳に入ってくるわけですがけれども、もう一捻り考えていただければありがたい、民生委員の仕事をあまり振らないで、仕事を増やさないでほしいと、こんな要望でございます。

それと併せて、人数をできるだけ何か増やしていただく方法はないか。

【長谷市民局長】

民生委員の会議であるとか、あるいは地区社協の会議の中で、やはり今、おっしゃられたことを数多く聞かさせていただいております。

高齢者が増える中で、やむを得ない部分もある。先ほどもそういうお答えをしました。民生委員数の部分につきまして、この場ですぐ増やせるということはなかなか言えないが、先ほど申し上げました、今後、いろんな福祉の施策を進めていく中で考えなくてはならないこともあると思っておりますので、これから地域の声を聞きながら、来年度以降の中で可能なことからにはなると思うが、ぜひ考えていきたいと思えます。

(5) 市長まとめ

【山野金沢市長】

いろんな事業の財源の話が出ていますので、そのことと2つ申し上げたいと思えます。

一つは、恥ずかしながら自分の力不足ですけれども、皆様のご理解をいただきまして、この2月から家庭ごみ、新しい制度、いわゆる有料化をさせていただきました。手数料をいただいて、できるだけ地域に還元をしたいということで、いろんな提案もさせていただきました。

その中で、市内の街路灯、全てLED化をして一元管理を委託する。そして、それを手数料で対応するというに使わせてほしいと言って、僕は今でもこれが絶対一番いい方法だと思っています。ただ、やっぱりごみと街路灯は違うのではないかというご意見が多いこともあって、僕は2年間かけて町会連合会の皆さん、いろんなところで説明をさせていただきましたけれども、僕の言葉の力が弱くてご理解がいただけませんでした。残念ながら断念をいたしました。

これがやっぱりよかったと思うのは、今でも僕はよかったと思っておりますが、やっぱり一つには、LEDは二酸化炭素排出量が減るということ。長期間もちますので、単純に考えてごみの量が減るということ。もう一つは、街路灯の電気代等を一部町会に負担していただいているところでもありますけれども、一括することによって、その基金から全て賄うことによって、各町会の皆さんにご負担いただいているものも、そこからきちんと戻すことができますので、単純に考えてですが、4,000万円から5,000万円近く、町会の皆さんに戻ることになります。戻るって、払っていたものを払わなくてよくなるので、戻るとい

う形にはなりません、そう言っているのですけれども。ある厳しいご意見の方から、それは1,300町会でいえば単純に考えたら1町会あたり4万円弱じゃないか、というお話があって、僕の言葉の力が弱くてご理解いただけませんでしたので断念をいたしましたけれども、あれができていれば、確かに各単位町会で4万円弱かもしれませんが、校下単位では相当大きい金額になるかと思っています。それを地域活動にご利用いただくことによって、いろんな可能性が出てきたのではないかと今でも忸怩たる思いをしているところであります。

今は始まって1年目ですので、議会でも、まずは1年間この形でやらせてほしいと。2年目、3年目以降に、議会の皆さん、市民の皆さんのご意見をお聞きしながら工夫をしていきたいと申し上げているところでもありますので、今一度、皆さんのご意見をお聞きしながら、そんなことが可能かどうかということ。2年目は無理だと思っていますけれども、ぎりぎり3年目にもしご理解いただけるようであるならば、そんなやり方もあるなということ、この半年強の間、強く感じているところであります。

もう一つは、これも家庭ごみ有料化にあわせまして、古新聞、古雑誌等々、資源ごみもそうですけれども、奨励金というものを倍にいたしました。たとえば古新聞、古雑誌。これまでキロ当たり2円でしたが、今、4円にさせていただいたところであります。多くの校下、地区ではPTA、育友会、少連、子供会が中心で、また婦人会でされているところもあるようですけれども、今言ったように奨励金が倍になりましたので、積極的にいろんな活動していただければと思います。

また、古新聞、古雑誌だけではなくて、市は、まさにこういうごみとか、皆さんのご家庭に来るであろうハガキとかDM、トイレットペーパーの芯なんかもそうですけれども、多分これまで燃やすごみに出されていた方が多いと思いますが、それもリサイクルになります。ただ、古新聞、古雑誌は紐で結ぶことができますけれども、全部この大きさならいいのですけれども、トイレットペーパーの芯やティッシュの箱、DMのはがき、封書など、大きさもまちまちですので、結ぶのが難しいという場合は、デパートや和菓子店の紙袋。もちろん取っ手の部分も紙でできているものに入れて、出していただくことによって、それが資源になってきますし、それがキロ当たり4円という形にもなってきますので、ぜひそのお金を使っただけならばと思っています。

僕は長坂3丁目に住んでいます。長坂台校下は6月からどんなことをしたかということ、PTA、育友会がこれまでどおりやるのですけれども、月1回、回収日を決めることによ

って、それで入ったお金を全て長坂台校下の防災活動に使うという形で、6月から工夫をしているところであります。

ただ、これも年度の途中から始めたということと、なかなかご理解がいただけないこともあって、思いのほか集まらないということで、地域で一所懸命やっている方は大変苦勞をなさっているところではありますけれども、僕はこれ続けよう。続けることによって、今はなかなか集まらないかもしれないけれども、いろんな防災訓練等々を続けることによって、これは必要なことだと思っていただければ、たくさん出していただけるのではないかと考えていますので、ぜひ新堅、菊川の皆さんもPTA、育友会の方はもちろんされていらっしゃる。それはそれでしていただいて、PTA活動、育友会活動に使っていただければと思いますけれども、ぜひ地域の皆さんでもそんな工夫をちょっとしていただくことによって、それを財源にして、新たな地域活動に使っていく。もしくは既存の地域活動につけ加えていくことによって、いろんな運転資金が潤沢になっていく。そんな形での工夫というものも地域の中で話し合っていたできればなと思っています。

余談ですけれども、長坂台、隣の十一屋校下も月1回始めましたけれども、PTA、育友会に話をしに行きまして、PTA、育友会は、それやってくださいと。PTA、育友会はもちろんPTA活動費にも使っているけれども、子供たちに対して環境に対する意識を持ってもらうことが一番だから、ぜひそれは地域でやってください。PTA、育友会は、PTA、育友会としてやっていくと、大変意識の高いお言葉も言っていただいたところでもありますし、僕は新堅、菊川、今、統合しますけれども、同じ子を持つ親ですから同じ想いだと思っていますので、ぜひそれぞれのお立場で地域のために汗を流すことが大切だと思っています。

ちょっと長くなりましたけれども、いろんなご意見をいただきました。皆さんからいただいたご意見をしっかりと施策の中で反映をしていきたいと思っています。

今日は本当にありがとうございました。